

委員会報告 2020年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告

日本消化器がん検診学会 胃がん検診精度管理委員会

委員長：加藤 勝章（宮城県対がん協会がん検診センター）

委員：青木 利佳（徳島県総合健診センター）

安保 智典（合同会社メディカル・イメージ・コンサルティング）

小田 丈二（東京都立がん検診センター消化器内科）

小池 智幸（東北大学病院消化器内科）

高橋 宏和（国立がん研究センターがん対策研究所）

平川 克哉（福岡赤十字病院消化器科）

山道 信毅（東京大学医学部附属病院予防医学センター）

はじめに

本調査は胃がん検診精度管理委員会が全国集計委員会と協力して実施している。全国集計入力プログラムに合わせて、登録データは5歳区分で報告可能な場合は5歳区分で報告し、10歳区分のみ可能な場合は10歳区分で報告するため、調査結果は5歳区分と10歳区分の2種類となっている。なお、偶発症アンケートの回答数は269施設であり、昨年度の回答施設が200施設であったので3割以上増加した。

結果

I. 胃X線検診

検査総数は地域・職域・その他を合わせて5歳区分報告が3,184,128人、10歳区分報告が1,173,454人、合計4,357,582人であった（表1）。昨年度に比べて5歳区分、10歳区分共が増加しているが、10歳区分施設の40%が受診者数5,000人未満であった。一方、5歳区分施設は161施設で昨年度に比べて増加しているが、受診者数1万人以上の施設が全体の53%を占めていた。10歳区分での偶発症報告が0件であったので、以下は5歳区分の数値を示す。

偶発症の発生頻度は、5歳区分でバリウム誤嚥が907件（28.485/10万件）であった。過敏症状が9件（0.283/10万件）、腸閉塞が4件（0.126/10万件）、腸管穿孔が6件（0.188/10万件）でその他が179件（5.622/10万件）であった。入院が必要であった症例は2件（0.063/10万件）であり、死亡例および訴訟例は無かった（表2）。

偶発症の発生頻度はバリウムの誤嚥が最も多く、3年連続増加している（2017年度683件：16.605/10万件、2018年度796件：24.344/10万件、2019年度858件：29.606/10万件）。腸閉塞は4件で昨年より減少した（2019年度7件）。その他偶発症は179件で昨年より減少した（2019年度182件：6.280/10万件）。高齢者では日常的なむせ込みや排便状況などの問診が不十分になることや、検査後の水分摂取が不十分、下剤の飲み忘れ等も起こることがあり、注意が必要である。検診後何らかの症状が出現した場合の注意・指導、連絡先の記載したリーフレットの配布等の対策が引き続き必要と思われる。

表1 胃X線検診の偶発症調査の概要
(性・年齢区分不可数含む)

5歳区分

受診者数(人)	地域	職域	その他	総数
合計	931,700	2,037,971	214,457	3,184,128
男	418,108	1,323,800	128,833	1,870,741
女	513,592	714,171	85,624	1,313,387

偶発症(件)

	バリウムの誤嚥	腸閉塞	腸管穿孔	過敏症状	その他の偶発症	合計
偶発症	907	4	6	9	179	1,105
要入院	0	0	0	1	1	2
死亡	0	0	0	0	0	0
訴訟	0	0	0	0	0	0

10歳区分

受診者数(人)	地域	職域	その他	総数
合計	140,453	970,229	62,772	1,173,454
男	62,197	637,435	43,992	743,624
女	78,256	332,794	18,780	429,830

偶発症(件)

	バリウムの誤嚥	腸閉塞	腸管穿孔	過敏症状	その他の偶発症	合計
偶発症	0	0	0	0	0	0
要入院	0	0	0	0	0	0
死亡	0	0	0	0	0	0
訴訟	0	0	0	0	0	0

表2 胃X線検診の偶発症発生頻度

5歳区分	n = 3,184,128
偶発症発生頻度	1,105 件 (34.703 /10万件)
バリウム誤嚥	907 件 (28.485 /10万件)
腸閉塞	4 件 (0.126 /10万件)
腸管穿孔	6 件 (0.188 /10万件)
過敏症状	9 件 (0.283 /10万件)
その他の偶発症	179 件 (5.622 /10万件)
要入院	2 件 (0.063 /10万件)
死亡例	0 件 (0.000 /10万件)
訴訟例	0 件 (0.000 /10万件)

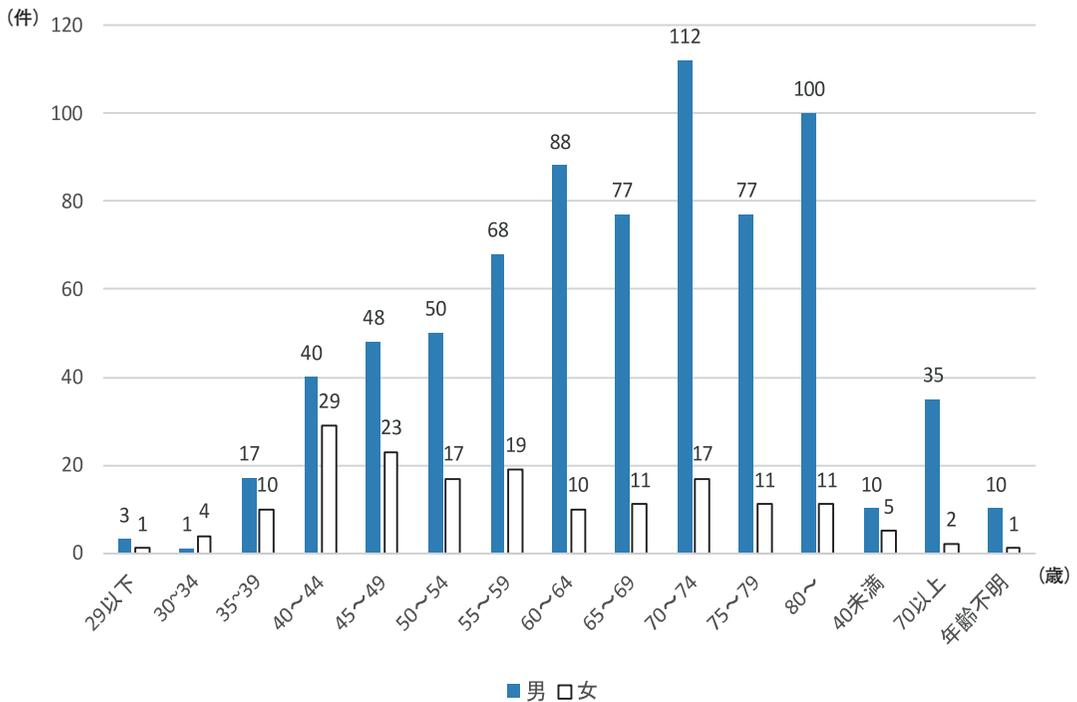


図1 誤嚥症例の年齢階級別分布

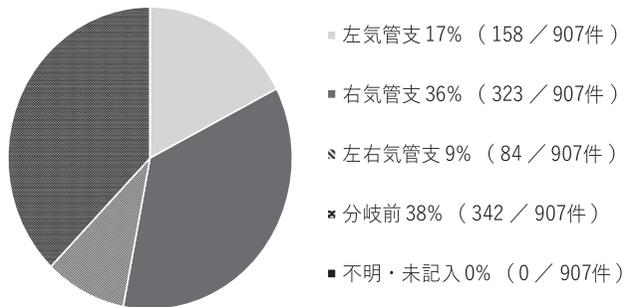


図2 誤嚥部位・男女合計

誤嚥症例の年齢階級別分布を見ると、例年のごとく男性・高齢者に多いことが分かる（図1）。誤嚥部位は分岐前が342件（38%）で最も多く、右気管支323件（36%）、左気管支158件（17%）であった（図2）。分岐前および右気管支が多いということは少量の誤嚥が多いということが推測される。

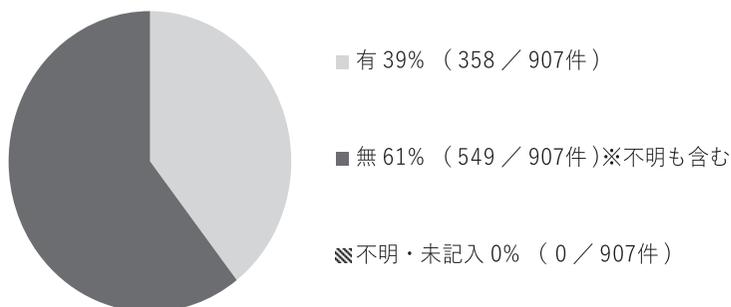


図3 誤嚥症例の咳嗽の有無・男女合計

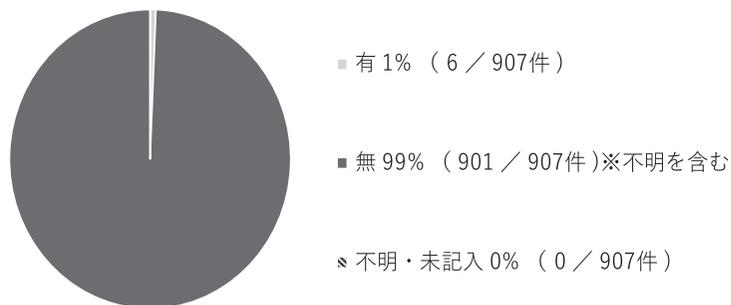


図4 誤嚥症例の発熱の有無・男女合計

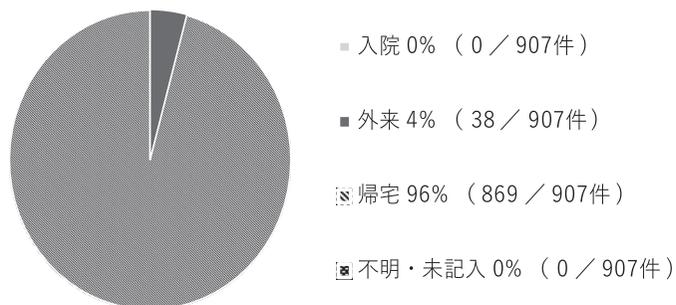


図5 誤嚥症例の治療経過・男女合計

誤嚥症例の咳嗽の有無を見ると咳嗽無しが549件(61%)と半数以上を占め、男性・高齢者の誤嚥症例では咳嗽反射が少ないことも例年通りである(図3)。同じく、発熱の有無を見ると、殆どが発熱無しであり(図4), 869件(96%)がそのまま帰宅可能であり、外来診療を要したのは38件(4%)であった(図5)。誤嚥は軽症例が多いとされているが、注意が必要であろう。

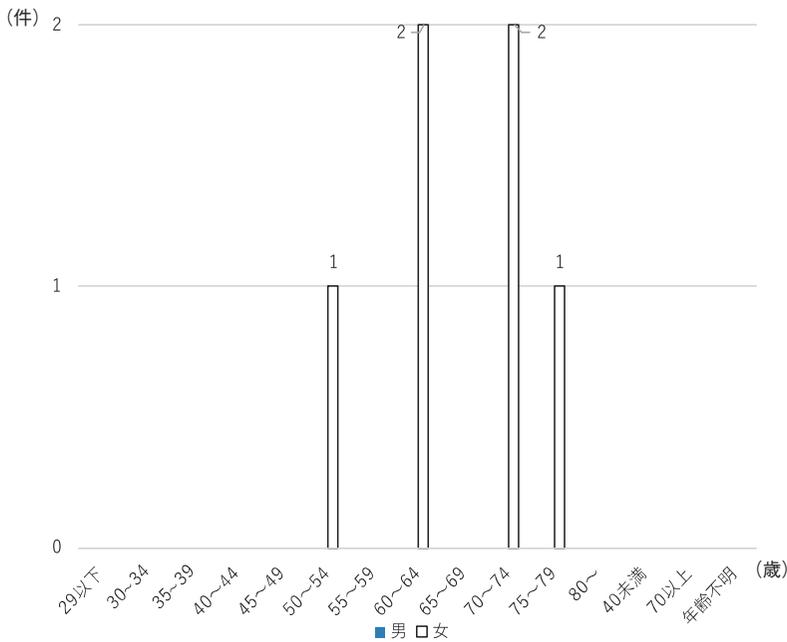


図6 腸管穿孔症例の年齢階級別分布

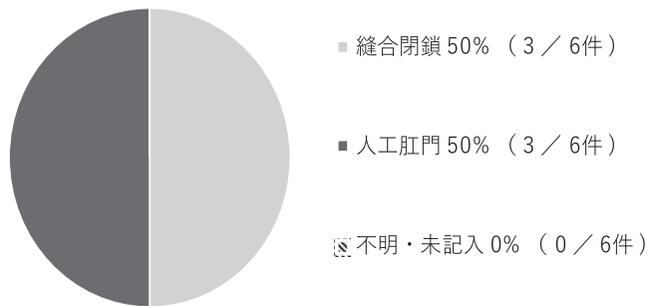


図7 腸管穿孔症例の治療方法

腸管穿孔は6件認められたが、誤嚥症例と異なり全員女性であり、女性の高齢者に多いことも例年と同じである(図6)。人工肛門の造設が3件(50%)、縫合閉鎖が3件(50%)なされており(図7)、重篤な結果となったが今回も死亡例は無かった(図8)。

過敏症例は9件で性年齢問わず発生する(図9)。過敏症の症状としてはその他が5件(56%)、発疹4件(44%)であった(図10)。ショックは1件(11%)認められた(図11)。予後を見ると、入院を要したものは1件(11%)、外来診療が必要であったのは2件(22%)であった(図12)。過敏症の原因は、バリウム製剤が2件(22%)で、他の多くは原因不明または未記入であった(図13)。

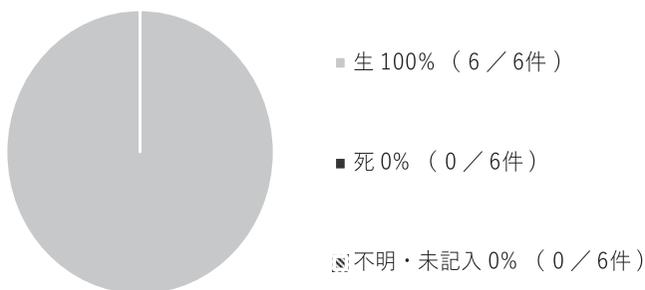


図8 腸管穿孔症例の予後

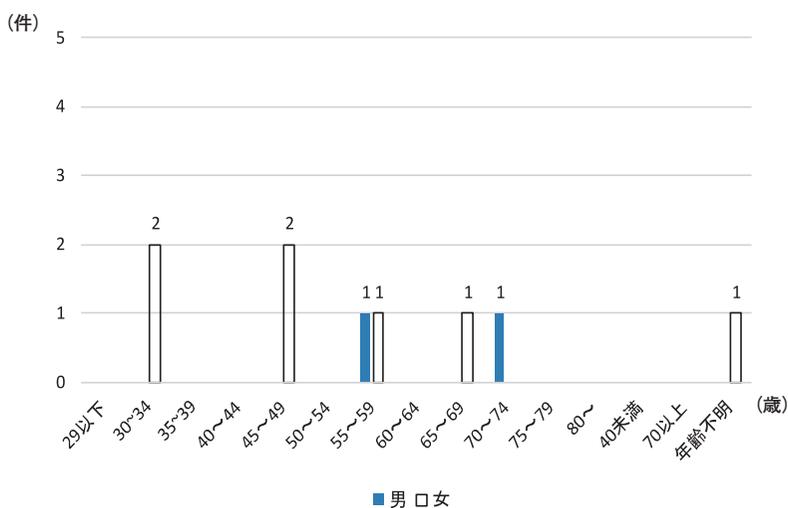


図9 過敏症例の年齢階級別分布

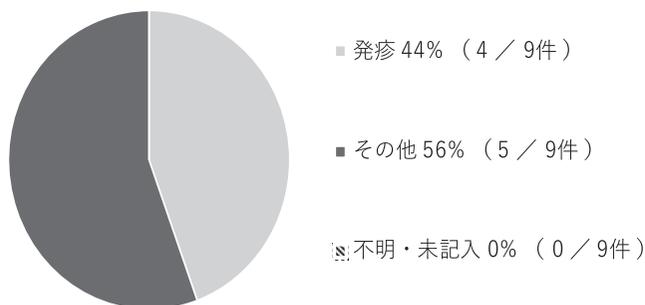


図10 過敏症例の症状

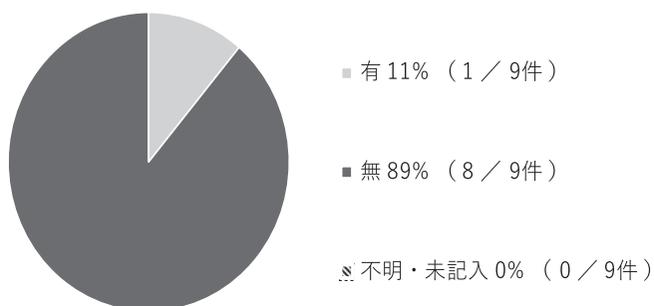


図11 過敏症例のショックの有無
※性・年齢区分不可数を含む

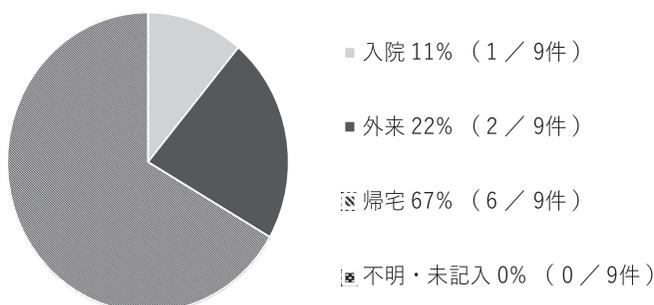


図12 過敏症例の予後
※性・年齢区分不可数を含む

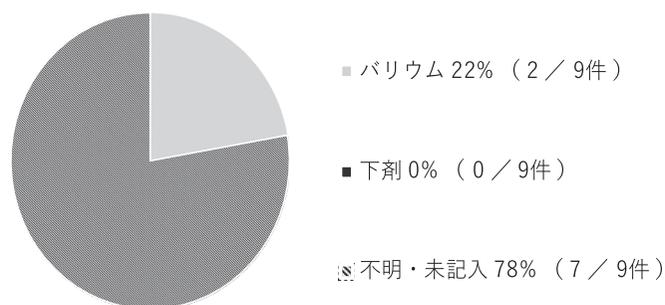
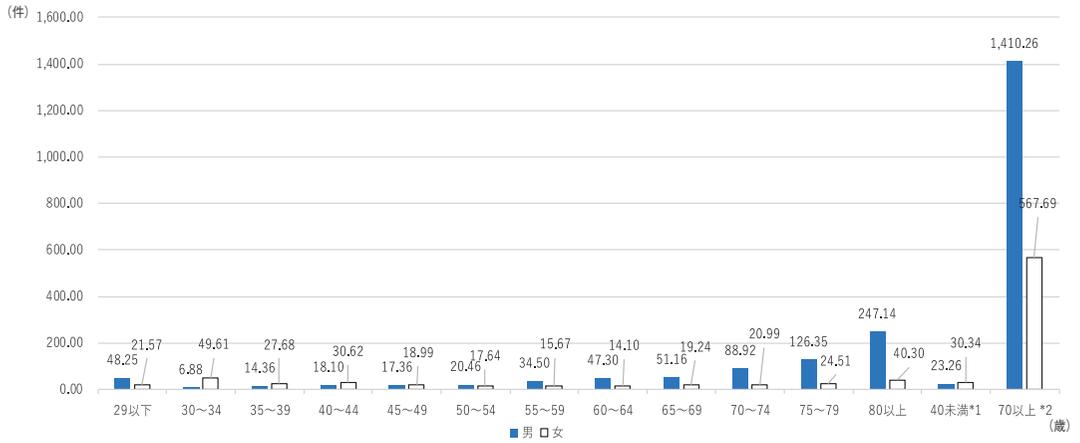


図13 過敏症例の原因
※性・年齢区分不可数を含む

図14a-fに偶発症全体および個別の年齢区分別発生頻度を呈示する。なお、10歳区分に偶発症の報告が無かったため省略した。

図14 上部消化管造影検査時の偶発症発生頻度（10万件当たり）

a 全体

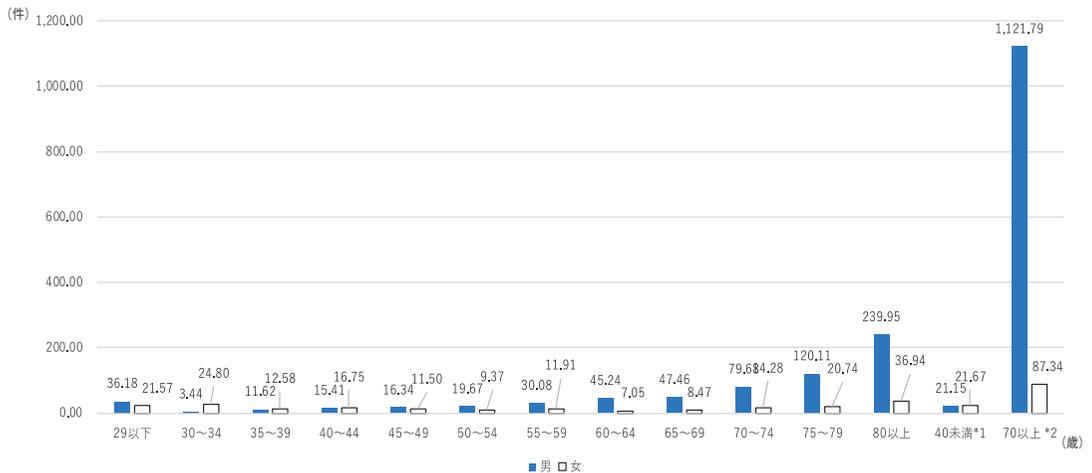


計	年齢区分														
	29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2	
計	34.70	38.68	22.13	19.05	23.11	18.02	19.28	26.71	33.30	36.96	57.77	80.24	160.95	25.58	1,053.60
男	43.14	48.25	6.88	14.36	18.10	17.36	20.46	47.30	51.16	88.92	126.35	247.14	23.26	1,410.26	
女	22.61	21.57	49.61	27.68	30.62	18.99	17.64	15.67	14.10	19.24	20.99	24.51	40.30	30.34	567.69

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

b 誤嚥症例

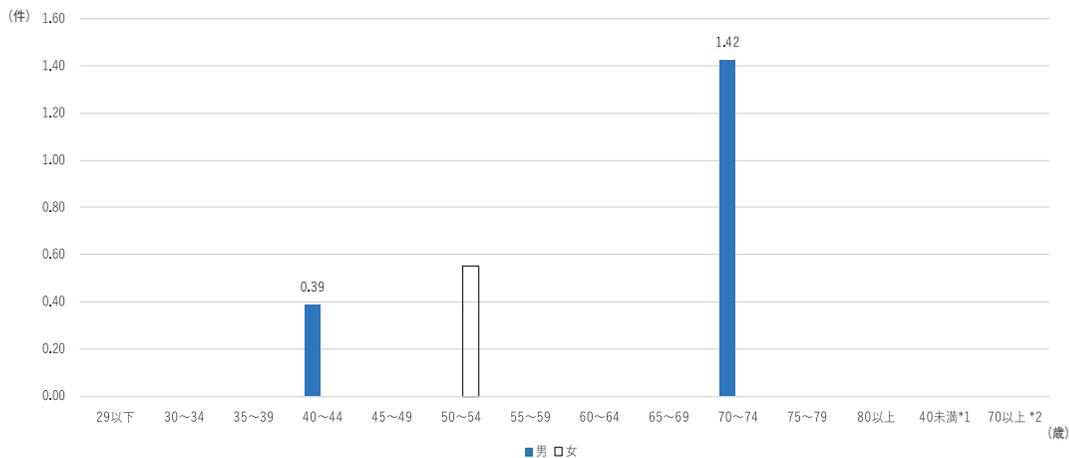


計	年齢区分														
	29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2	
計	28.49	30.95	11.07	11.96	15.95	14.38	15.38	22.56	29.14	30.12	49.68	75.12	155.35	21.32	683.92
男	39.34	36.18	3.44	11.62	15.41	16.34	19.67	30.08	45.24	47.46	79.68	120.11	239.95	21.15	1,121.79
女	13.02	21.57	24.80	12.58	16.75	11.50	9.37	11.91	7.05	8.47	14.28	20.74	36.94	21.67	87.34

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

c 腸閉塞症例

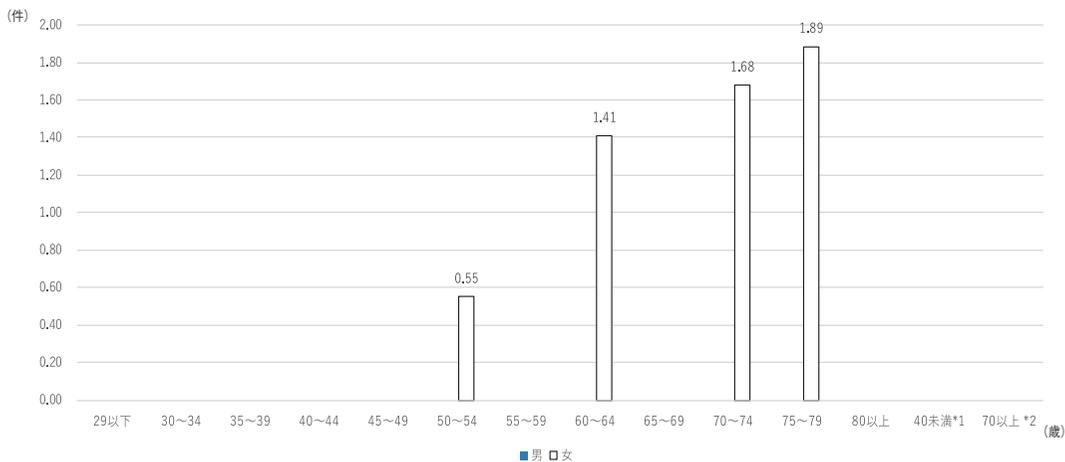


	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	0.13	0.00	0.00	0.00	0.23	0.00	0.23	0.00	0.00	0.00	0.77	0.00	0.00	0.00	0.00
男	0.16	0.00	0.00	0.00	0.39	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.42	0.00	0.00	0.00	0.00
女	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

d 腸管穿孔

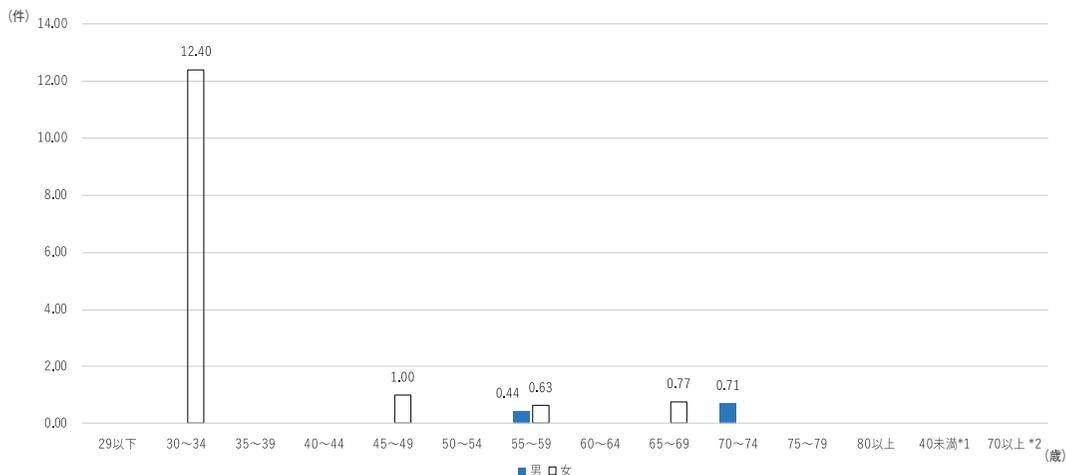


	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.23	0.00	0.59	0.00	0.77	0.85	0.00	0.00	0.00
男	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
女	0.46	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.55	0.00	1.41	0.00	1.68	1.89	0.00	0.00	0.00

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

e 過敏症状

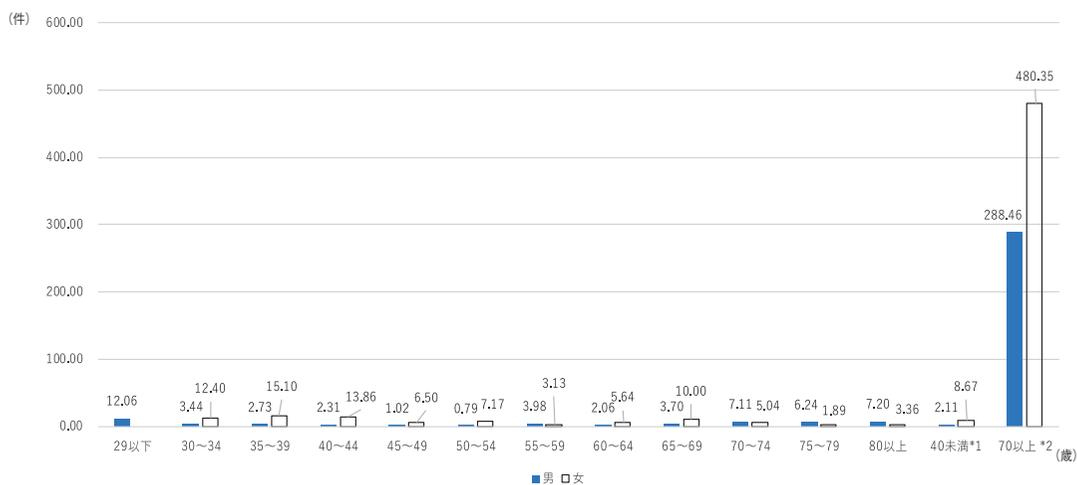


	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	0.28	0.00	4.43	0.00	0.00	0.41	0.00	0.52	0.00	0.34	0.39	0.00	0.00	0.00	0.00
男	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.44	0.00	0.00	0.00	0.71	0.00	0.00	0.00	0.00
女	0.53	0.00	12.40	0.00	0.00	1.00	0.00	0.63	0.00	0.77	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

f その他の偶発症



	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	5.02	7.74	6.64	7.09	6.93	3.24	3.44	3.63	3.57	6.50	6.16	4.27	5.60	4.26	369.69
男	3.08	12.06	3.44	2.73	2.31	1.02	0.79	3.98	2.06	3.70	7.11	6.24	7.20	2.11	288.46
女	7.69	0.00	12.40	15.10	13.86	6.50	7.17	3.13	5.64	10.00	5.04	1.89	3.36	8.67	480.35

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

表3 胃内視鏡検診偶発症調査の概要
(性・年齢区分不可を含む)

5歳区分

受診者数(人)

男	女	合計
180,191	136,311	316,502

偶発症(件)

	穿孔症例	鼻出血	気腫	粘膜裂創	生検部からの 後出血	前処置薬剤による アナフィラキシー ショック	鎮静剤による 呼吸抑制	その他の 偶発症	合計
偶発症	1	341	1	168	6	0	13	36	566
要入院	1	0	1	0	0	0	0	0	2
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訴訟	0	0	0	0	0	0	0	0	0

10歳区分

受診者数(人)

男	女	合計
80,417	61,666	142,083

偶発症(件)

	穿孔症例	鼻出血	気腫	粘膜裂創	生検部からの 後出血	前処置薬剤による アナフィラキシー ショック	鎮静剤による 呼吸抑制	その他の 偶発症	合計
偶発症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訴訟	0	0	0	0	0	0	0	0	0

II. 胃内視鏡検診

検査総数は地域・職域・その他を合わせて5歳区分報告が316,502人、10才区分報告が142,083人、合計458,585人であった(表3)。昨年度に比べて5歳区分、10歳区分共に報告数が増加している。なお、受診数5,000人未満の施設は5歳区分で84施設、5歳区分報告の73%、10歳区分では48施設で、10歳区分報告の90%ほどを占め、1,000人未満の施設は5歳区分で21%、10歳区分で31%であった。胃X線検診同様に10歳区分での偶発症報告が0件であったので、以下は5歳区分の数値を示す。

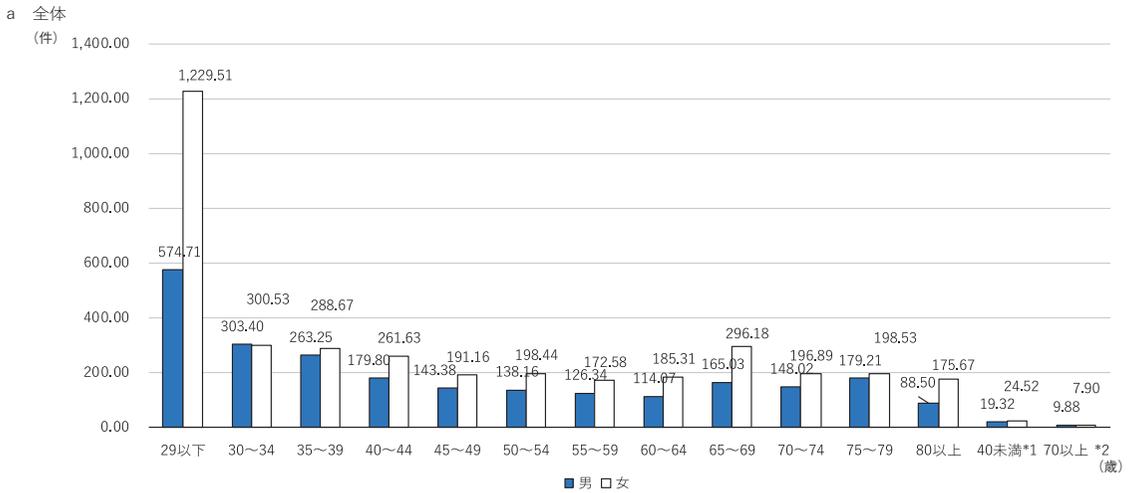
内視鏡検診偶発症の発生頻度は566件(178.830/10万件)で殆どが保存的に治療され、入院を要する症例は2件(0.632/10万件)であった(表4)。胃内視鏡検診の偶発症としては、鼻出血が最も多く341件(107.740/10万件)で、偶発症例数の60%を占めた。鼻出血の年齢区分別発生頻度は、30歳代で220.90~201.41件/10万件ときわめて高く、若年者に高いことである(図15-d)。マロリーワイスを含む粘膜裂創は168件(53.080/10万件)であった。粘膜裂創の部位は、食道が107件(64%)で最も多く、ついで胃が38件(23%)、咽喉頭23件(14%)であった(図16)。何らかの処置が必要な生検部からの後出血は6件(1.896/10万件)あり、部位は胃4件(67%)、咽喉頭1件(17%)、食道1件(17%)であり(図17)、保存的に治療された。

その他では、アナフィラキシーショック症例は0件で昨年より減少した(2019年度1件:0.363/10万件)。鎮静剤による呼吸抑制は13件(4.107/10万件)で昨年より減少(2019年度17件:6.177/10万件)、その他偶発症は36件(11.374/10万件)で昨年より減少(2019年度40件:14.533/10万件)であった。

表 4 胃内視鏡検診の偶発症発生頻度

5 歳区分	n = 316,502	
偶発症発生頻度	566 件	(178.830 /10万件)
穿孔症例	1 件	(0.316 /10万件)
鼻出血	341 件	(107.740 /10万件)
気腫	1 件	(0.316 /10万件)
粘膜裂創	168 件	(53.080 /10万件)
生検部からの後出血	6 件	(1.896 /10万件)
前処置薬剤によるアナフィラキシーショック	0 件	(0.000 /10万件)
鎮静剤による呼吸抑制	13 件	(4.107 /10万件)
その他の偶発症	36 件	(11.374 /10万件)
要入院	2 件	(0.632 /10万件)
死亡例	0 件	(0.000 /10万件)
訴訟例	0 件	(0.000 /10万件)

図15 内視鏡胃がん検診の偶発症発生頻度（10万件当たり）

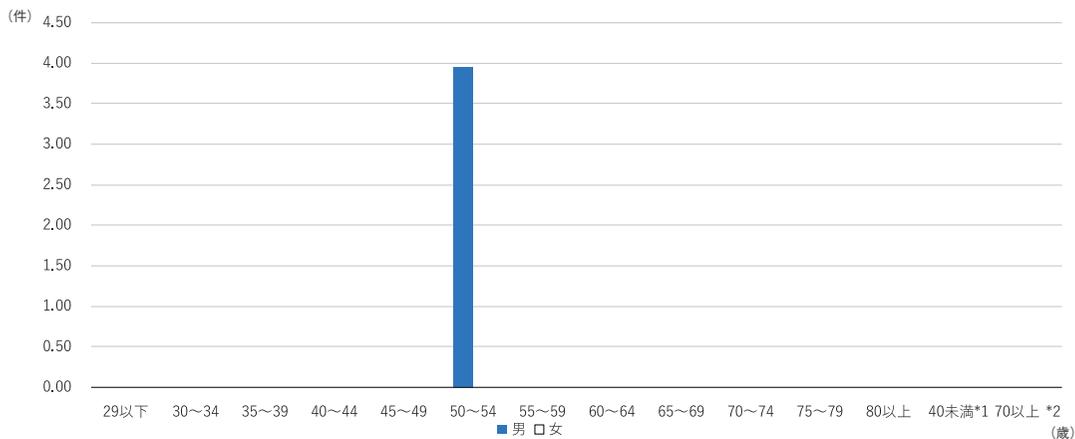


計	年齢区分														
	29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2	
計	146.50	844.59	302.11	274.45	215.41	163.86	164.87	145.54	143.00	220.68	170.36	188.02	127.40	21.61	8.98
男	124.69	574.71	303.40	263.25	179.80	143.38	138.16	126.34	114.07	165.03	148.02	179.21	88.50	19.32	9.88
女	174.77	1,229.51	300.53	288.67	261.63	191.16	198.44	172.58	185.31	296.18	196.89	198.53	175.67	24.52	7.90

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

b 穿孔症例

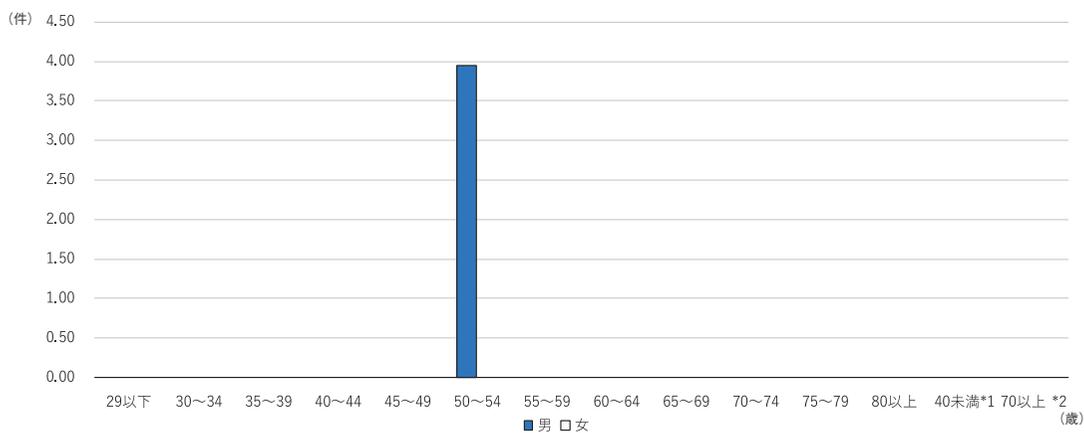


	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	0.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
男	0.46	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.95	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
女	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

c 気腫（穿孔症例との重複も含む）

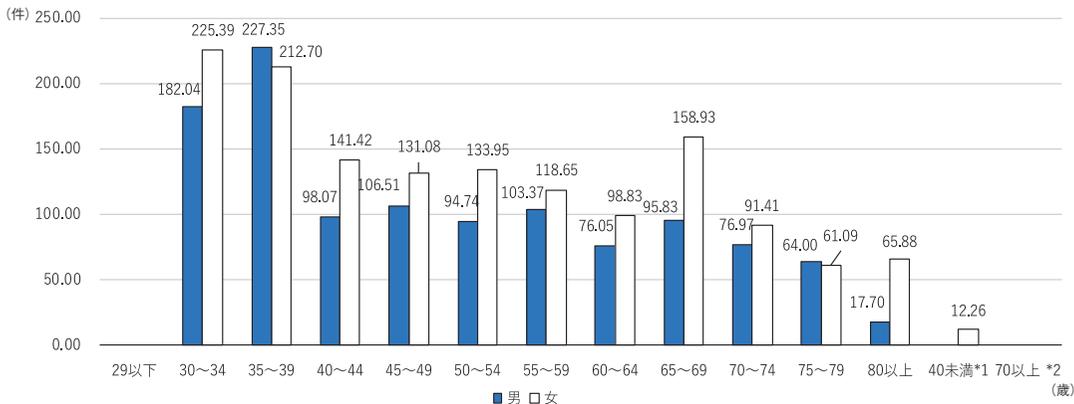


	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	0.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
男	0.46	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.95	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
女	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

d 鼻出血

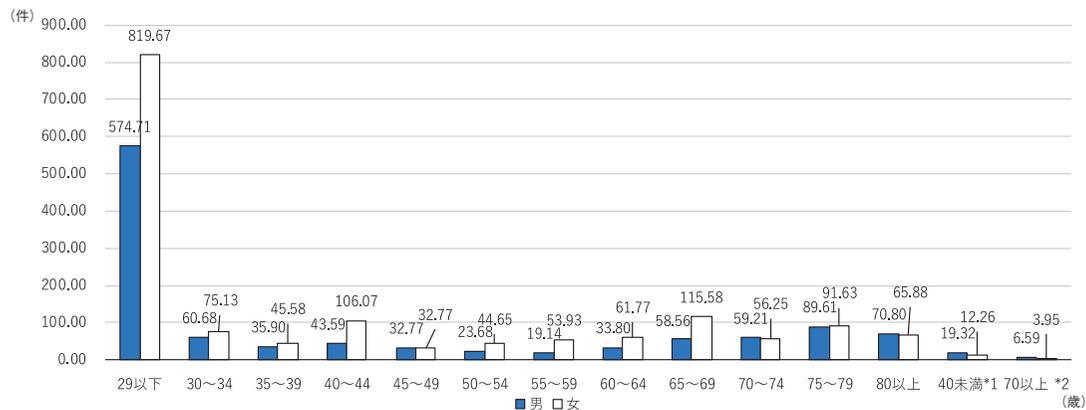


	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	88.26	0.00	201.41	220.90	116.94	117.04	112.11	109.72	85.30	122.60	83.57	62.67	39.20	5.40	0.00
男	78.85	0.00	182.04	227.35	98.07	106.51	94.74	103.37	76.05	95.83	76.97	64.00	17.70	0.00	0.00
女	100.46	0.00	225.39	212.70	141.42	131.08	133.95	118.65	98.83	158.93	91.41	61.09	65.88	12.26	0.00

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

e 粘膜裂創 (マロリーワイスも含む)

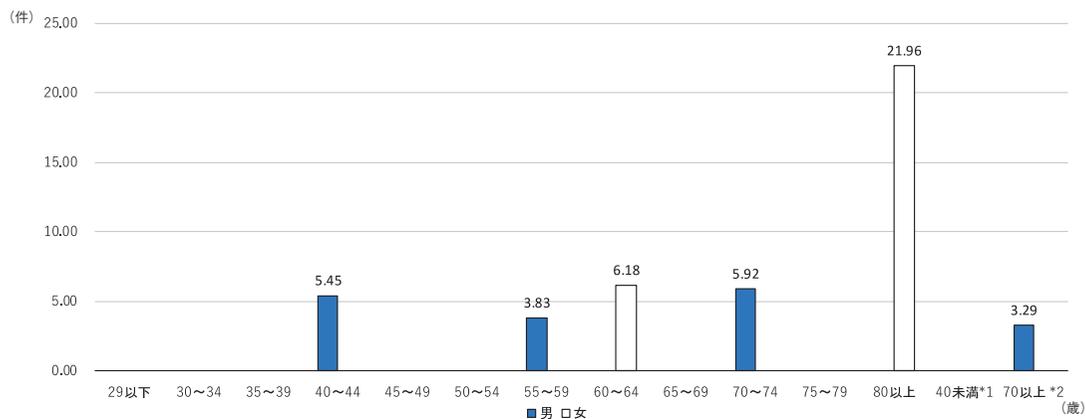


	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	43.48	675.68	67.14	40.16	70.78	32.77	32.97	33.59	45.16	82.75	57.86	90.53	68.60	16.21	5.39
男	35.30	574.71	60.68	35.90	43.59	32.77	23.68	19.14	33.80	58.56	59.21	89.61	70.80	19.32	6.59
女	54.10	819.67	75.13	45.58	106.07	32.77	44.65	53.93	61.77	115.58	56.25	91.63	65.88	12.26	3.95

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

f 生検部からの後出血



	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	1.55	0.00	0.00	0.00	3.08	0.00	0.00	2.24	2.51	0.00	3.21	0.00	9.80	0.00	1.80
男	1.83	0.00	0.00	0.00	5.45	0.00	0.00	3.83	0.00	0.00	5.92	0.00	0.00	0.00	3.29
女	1.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.18	0.00	0.00	0.00	21.96	0.00	0.00

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

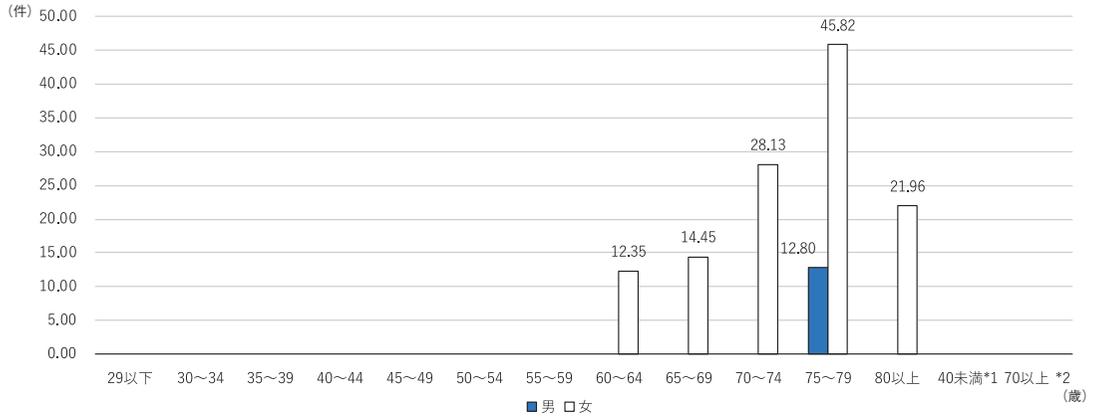
g 前処置薬剤によるアナフィラキシーショック

	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
男	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
女	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

h 鎮静剤による呼吸抑制

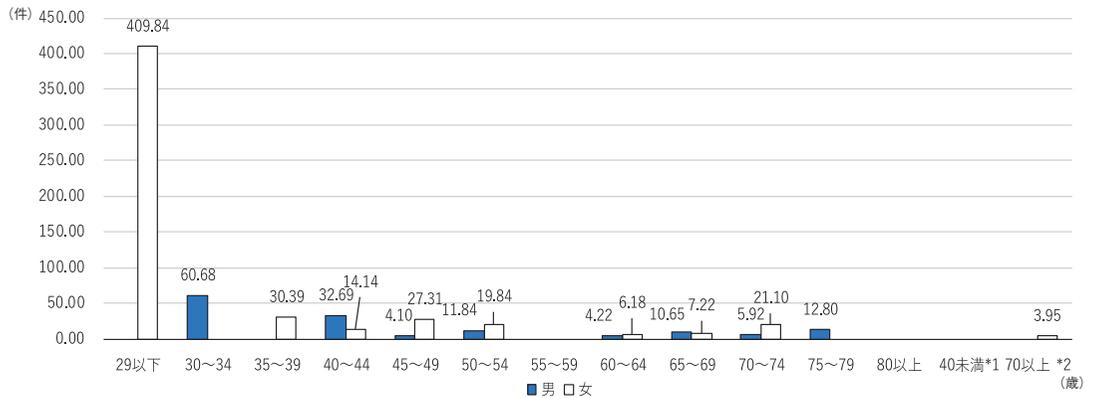


	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	3.36	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.02	6.13	12.86	27.86	9.80	0.00	0.00
男	0.46	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	12.80	0.00	0.00	0.00
女	7.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	12.35	14.45	28.13	45.82	21.96	0.00	0.00

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

i その他の偶発症



	計	年齢区分													
		29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	40未満*1	70以上*2
計	9.32	168.92	33.57	13.39	24.62	14.05	15.39	0.00	5.02	9.19	12.86	6.96	0.00	0.00	1.80
男	7.33	0.00	60.68	0.00	32.69	4.10	11.84	0.00	4.22	10.65	5.92	12.80	0.00	0.00	0.00
女	11.89	409.84	0.00	30.39	14.14	27.31	19.84	0.00	6.18	7.22	21.10	0.00	0.00	0.00	3.95

*1 40歳未満だが年齢区分をしていないもの

*2 70歳以上だが年齢区分をしていないもの

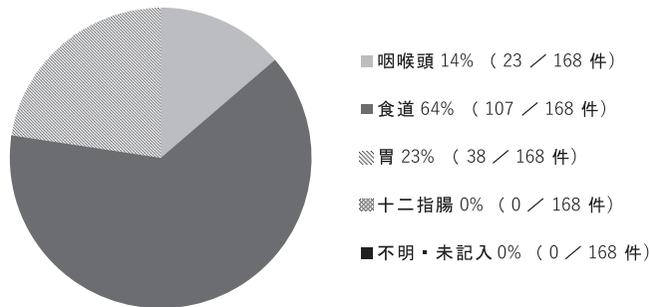


図16 粘膜裂創の部位

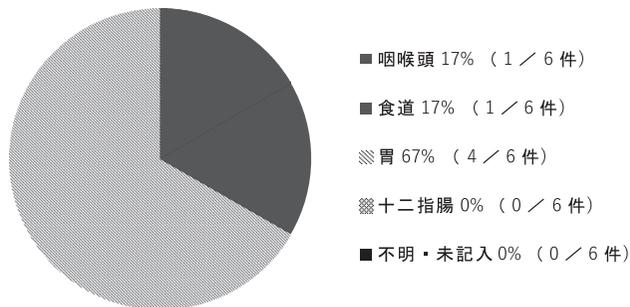


図17 生検部からの後出血の部位

入院を要したのは穿孔症例1件，気腫1件で，偶発症566件に占める割合は0.35%であった（表3：5才区分の下段，要入院件数）。なお，訴訟例，死亡例は無かった（表4）。入院を要する偶発症の頻度をX線と比較すると，内視鏡検診では0.632/10万件，X線検診では0.063/10万件であり，内視鏡検診ではX線検診の約10倍であった。ただし，内視鏡検診では重篤な合併症は検査直後に発生し全て把握可能であるが，X線検診では検査後数日経ってから発生する場合もあることから，全例の把握は困難であり，X線検診は内視鏡検診と比較して，入院を要する偶発症の頻度は過小評価されることに留意する必要がある。

図15a-iに全体および個別の年齢区分別偶発症発生頻度を呈示する。なお，10才区分に偶発症の報告が無かったため省略した。

最後に

2020年度の偶発症調査では幸いなことにX線および内視鏡検診ともに死亡事故は起きていないが，各検診施設では内視鏡検診の導入に伴い偶発症の増加も危惧されているところであり，改めて注意を喚起したい。特に，国が推奨する対策型検診の対象年齢以下の者については，検診受診によって得られる利益よりも，偶発症発生による不利益が上回る可能性もあり，慎重な対応が望まれる。

過去3年間の推移を参考資料に示すので，参照いただきたい。

参考資料1 胃X線検診の偶発症調査の概要

2017年度 5歳区分		n = 4,113,204
偶発症発生頻度	885 件	(21.516 /10万件)
バリウム誤嚥	683 件	(16.605 /10万件)
腸閉塞	2 件	(0.049 /10万件)
腸管穿孔	1 件	(0.024 /10万件)
過敏症状	10 件	(0.243 /10万件)
その他の偶発症	189 件	(4.595 /10万件)
要入院	7 件	(0.17 /10万件)
死亡例	0 件	(0.000 /10万件)
訴訟例	0 件	(0.000 /10万件)

2018年度 5歳区分		n = 3,269,859
偶発症発生頻度	1,057 件	(32.366 /10万件)
バリウム誤嚥	796 件	(24.344 /10万件)
腸閉塞	0 件	(0.000 /10万件)
腸管穿孔	1 件	(0.031 /10万件)
過敏症状	19 件	(0.581 /10万件)
その他の偶発症	241 件	(7.370 /10万件)
要入院	3 件	(0.092 /10万件)
死亡例	0 件	(0.000 /10万件)
訴訟例	0 件	(0.000 /10万件)

2019年度 5歳区分		n = 2,898,015
偶発症発生頻度	1,058 件	(36.508 /10万件)
バリウム誤嚥	858 件	(29.606 /10万件)
腸閉塞	7 件	(0.242 /10万件)
腸管穿孔	3 件	(0.104 /10万件)
過敏症状	8 件	(0.276 /10万件)
その他の偶発症	182 件	(6.280 /10万件)
要入院	4 件	(0.138 /10万件)
死亡例	0 件	(0.000 /10万件)
訴訟例	0 件	(0.000 /10万件)

参考資料2 胃内視鏡検診の偶発症調査の概要

2017年度 5歳区分		n = 311,757
偶発症発生頻度	667 件	(213.949 /10万件)
穿孔症例	2 件	(0.642 /10万件)
鼻出血	464 件	(148.834 /10万件)
気腫	0 件	(0 /10万件)
粘膜裂創	106 件	(34.001 /10万件)
生検部からの後出血	23 件	(7.378 /10万件)
前処置薬剤によるアナフィラキシーショック	1 件	(0.321 /10万件)
鎮痛剤による呼吸抑制	53 件	(17.000 /10万件)
その他の偶発症	18 件	(5.774 /10万件)
要入院	3 件	(0.962 /10万件)
死亡例	0 件	(0 /10万件)
訴訟例	1 件	(0.321 /10万件)
2018年度 5歳区分		n = 281,713
偶発症発生頻度	528 件	(187.425 /10万件)
穿孔症例	0 件	(0.000 /10万件)
鼻出血	332 件	(117.850 /10万件)
気腫	0 件	(0.000 /10万件)
粘膜裂創	106 件	(37.627 /10万件)
生検部からの後出血	9 件	(3.195 /10万件)
前処置薬剤によるアナフィラキシーショック	4 件	(1.420 /10万件)
鎮静剤による呼吸抑制	23 件	(8.164 /10万件)
その他の偶発症	54 件	(19.168 /10万件)
要入院	1 件	(0.355 /10万件)
死亡例	0 件	(0.000 /10万件)
訴訟例	0 件	(0.000 /10万件)
2019年度 5歳区分		n = 275,228
偶発症発生頻度	588 件	(213.641 /10万件)
穿孔症例	1 件	(0.363 /10万件)
鼻出血	393 件	(142.791 /10万件)
気腫	1 件	(0.363 /10万件)
粘膜裂創	127 件	(46.144 /10万件)
生検部からの後出血	8 件	(2.907 /10万件)
前処置薬剤によるアナフィラキシーショック	1 件	(0.363 /10万件)
鎮静剤による呼吸抑制	17 件	(6.177 /10万件)
その他の偶発症	40 件	(14.533 /10万件)
要入院	2 件	(0.727 /10万件)
死亡例	0 件	(0.000 /10万件)
訴訟例	0 件	(0.000 /10万件)

謝辞

偶発症対策は精度管理の要であり、できる限り正確に偶発症の発生を把握する必要があります。年度単位で実施している本調査は、我が国の胃がん検診が適正に実施されているか否かを評価する上で極めて重要な情報を提供しています。今後とも積極的なご協力を賜りますようお願いいたします。コロナ禍にもかかわらず、本調査にご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

お詫びと訂正

61巻1号105頁～107頁 2019年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告
において文章が重複して掲載されておりましたのでお詫びいたします。

過敏症例は、性年齢問わず発生する(図9)。過敏症の症状としてはその他が75%、発疹25%であった(図10)。ショックは認められなかった(図11)。予後を見ると、入院を要したものは無く、外来診療が必要であったのは1件(13%)であった(図12)。過敏症の原因は、バリウム製剤が6件(75%)であった(図13)。

表3 a-fに偶発症全体および個別の年齢区分別発生頻度を呈示する。なお、10歳区分に偶発症の報告が無かったため省略した。